

# 奈良県に住む外国人への取り組み

3年4組29番 藤井 奈那

## 〈はじめに〉

私が取り組んできたテーマは、奈良県に住む外国人を支援する取り組みをどのように充実させるかということだ。この探究を始めた理由は5つある。1つ目は、探究を始めた当初から私は外国人と日本人の関わり方に興味があり、外国人の中でも観光客等ではなく、移民に焦点を当て探究を行おうと考えたためだ。2つ目は、日本は少子高齢化の影響で不足する労働力を補うために外国人労働者の受け入れが拡大されているが、手当やサポートが圧倒的に少ないということを知った。私はその矛盾を疑問に思ったので解決したいと考えたためだ。3つ目は、本校のスタディーツアーで訪れた別府市役所で、別府市に住む外国人に対する取り組みについての話を聞く機会があった。話を聞きその手厚い取り組みに感銘を受け、私も奈良県に住む外国人のために取り組みをしたいと思ったためだ。4つ目は、別府市でもらったパンフレットから一般財団法人自治体国際化協会のサイトに辿り着き、調べていると栃木県・公益財団法人栃木県国際交流協会が制作した避難カードというものを見つけた。(出典1)奈良県にはそのようなものがないので、私も同じようなものを制作したいと思ったためだ。5つ目は、この探究を取り組み始めた時、東北地方でマグニチュード7の地震があり、その被害に遭った外国人の動画を偶然視聴した。そこから、日本語が不自由な外国人でも緊急時、特に災害に遭った時でも日本人と意思疎通を図ることができるものがより一層必要だと感じたためだ。これらの理由から、災害時などの緊急時でも日本人と意思疎通を図ることができるものとして緊急カードを制作することを決意した。

## 〈序論〉

奈良県に住む外国人が安心して暮らせるような取り組みを増やすためにはどうすればよいか。奈良県が制作した県内在住外国人数の推移によると、年々外国人数は増加している(出典2)。そのため、令和4年の出入国在留管理庁の外国人材の受入れ・共生に関する関係閣僚会議において決定された外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策(出典3)によると策定が218施策だった。毎年施策数は増加しているが、地方の県や地域などの範囲までは施策が補えていないと私は考える。新しい防災のきほん事典(出典4)と言う文献や栃木県の避難カードなどを参考に、信頼できる情報源を集めて制作していく。

## 〈本論〉

まず、緊急カードを制作するにあたって私が行ったことは栃木県の避難カード(図1)と奈良県の防災ガイドにどのような情報が書いてあるか知ることだ。ある程度カードに必要な情報を書き出した後、奈良県に住む外国人に必要な情報はどのようなものか、また、どのようなカードにするかを考えた。信頼できる必要な情報として思いついたのは災害時はラジオが役に立つので、ラジオの周波数やインターネットに繋がりにくい時でも使える災害用伝言板などを載せることだ。そして、5つの特徴があるカードを制作することを私は考えた。1つ目に、災害時などの緊急時に使用することがメインであること。2つ目に、奈良県の防災ガイドはサイズが大きいので、それよりも緊急時に持ち出してもかさばることがない、かつ、常に持ち運べる定期券サイズの小さいもの。3つ目に、指差しで、日本人と意思疎通ができるもの。4つ目に、特定の場所に紙とPDFで存在するカードであること。5つ目に、多言語(やさしい日本語、英語、中国語)の緊急カードであることだ。中国語で制作する理由は、私が言語の授業で選択していたためだ。加えて、政府統計の総合窓口(e-Stat)の在留外国人統計(出典5)、市区町村別 国籍・地域別 在留外国人(出典6)によると2021年12月、奈良県に住む外国人1万3873人のうち2番目に多いのが中国人だからだ。

制作する際にはグラフィックデザインツールのcanvaを使用した。制作していく中で、私の中で4つの疑問が生まれた。1つ目はどのようにカードを小さく、広げやすくすればいいのかだ。ただ単

にカードを定期券サイズまで縮小させるだけでは書き込みにくい。加えて、四つ折りにしてしまうと緊急時なのに広げることにかかってしまうのではないかと考えたためだ。2つ目は、限られたスペースの中でどうやったらたくさんの情報を載せることができるのかだ。サイトなどのURLをそのまま載せてしまうと、とても長いものがあると載せたい情報全てを載せきれない。それに加えて、緊急時なのにいちいちURLを打ち込まなくてはならなかったりと手間がかかってしまう。そのため、どのようにすれば限られたスペースを有効活用することができるのかを疑問に思った。3つ目は、カードの需要はどのくらいあるのか。また、本当に重要な情報が載っているのかだ。私は緊急カードはきっと外国人の役に立ち、需要があると思ったが、カードの需要が本当はどのくらいなのか全くわからなかったこと。そして、私は日本で生まれ育っているため、奈良県に住む外国人が本当に必要としている情報が載っているのかわからなかったためだ。4つ目は、どのようにしてこのカードの存在を広め、たくさんの人に使ってもらうかだ。国際高校だけでは範囲が狭い。そのため、たくさんの人に認知してもらい、カードを実際に使ってもらう方法はどのようなものがあるのかと思ったためだ。

1つ目の疑問は、カードを縦に蛇腹折りにすることで解決した。定期券サイズまで小さくして蛇腹折りにすることでカードを素早く広げやすく、持ち運びやすく書き込むことができるコンパクトサイズにすることができた。2つ目は、URLを1つのQRコードにまとめたことで解決した。初めはサイトのURLをQRコードにして一つ一つ載せていた。良い案だと思ったが、QRコードを1つだけ読み取りたいときに別のQRコードを読み取ってしまいとても不便だった。そこで調べていると、複数のURLを1つのQRコードにすることができると知った。実践してみるとスペースを有効活用することができ、情報をより載せることができた。3つ目は、Googleフォームでカードを使ってくれる人に、アンケートを取ることが解決策だと考えた。カードと一緒にGoogleフォームのアドレスが印刷された紙も取ってもらうことでアンケートを取る。そのアンケート内容としては、使いやすさや改善点、カードが必要だと思うかなどだ。4つ目は、留学生が多い奈良県の高校、奈良市国際交流協会や奈良県外国人支援センターに置いてもらう方法で解決すると考えた。外国人がたくさん集まりやすい場所にカードを置いておくことで、カードを目にする機会を増やし認知度を上げる。そして、実際に使ってもらうことで実用性を実感してもらい、口コミなどで広まればよりたくさんの人に使ってもらえるだろうと思った。

カードにはこれらの工夫した点、新しい防災のきほん事典から得た情報とイラストを付け加えた。私が制作した緊急カード(図2)は7つの内容が含まれている。1つ目は緊急カードだとすぐにわかる表紙。2つ目は個人情報を書き込めるスペース。3つ目は災害時に役に立つ情報、4つ目、5つ目は避難時に持ち出すものや近くの避難所などを自分で書き込むことができるスペース、6つ目は指差しで意思疎通をとれるスペース。そして7つ目は避難を知らせる言葉を載せた。なぜなら、法務省出入国在留管理庁の令和2年度 在留外国人に対する基礎調査の概要(出典7)によると災害時に困ることとして9.8%の在留外国人が「警報・注意報などの避難に関する情報が、多言語で発信されていないためわからなかった」ことが挙げられているからだ。これらが日本語版の完成形である。たくさんの人にアドバイスをいただいたおかげで良いものが制作できたと思う。

## 〈結論〉

栃木県の避難カードや奈良県の防災ガイドなどをもとに完成した緊急カードだが、私にはまだ課題が4つ残っている。1つ目にどうやって縦に蛇腹折りできるようにプリントアウトするかだ。私に印刷方法の知識がないこと。加えて、学校の印刷機ではうまくできなかったためだ。2つ目に日本語から英語、中国語に翻訳し、新しく緊急カードを制作することだ。日本語で制作することに時間がかかってしまったためだ。3つ目に国際高校の外国人の先生や留学生、奈良県外国人支援センターからフィードバックをもらうことだ。蛇腹折りでプリントアウトして実際に使用してもらい、フィードバックをもらいたかったためだ。4つ目に、もらったフィードバックから改良を行い奈良県外国人支援センターに置いてもらうことだ。これらの課題をこれから解決していこうと考えている。

〈終わりに〉

私はこの探究を通して、防災の大切さに気づけたり、在留外国人の困りごとへの理解を深めたりすることができた。探求を始める前までは防災は大事だという言葉はしっかり理解していたが、実際に行動しているかと言うとそうではなかった。しかし、防災についてたくさん調べていく中で、簡単に自分に合った防災グッズなどをお薦めしてくれるサイトで自分に合った防災グッズを探してみたり、自分が住む地域のハザードマップを確認したりした。そうすることによって、考えていたよりも防災は簡単なものだとすることに気がついた。そのため、私にとって防災がより身近なものになり、大切さに気づくことができたため、緊急カードを手にした人が防災の大切さに気づくことができればいいなという気持ちも強くなった。在留外国人の困りごとはこの探究を始める前から継続して調べていたことだったため、理解しているつもりだった。しかし、時間をかけてインターネット、文献などを使用して調べていくと知らなかったことを知れたり、知識をより深めたりすることができた。

この探究で得た学びを活かして、今後も奈良県に住む外国人のための取り組みを行いたいと考えている。

〈図〉  
(図1)



(図2)



〈参考文献・出典〉

- (出典1) 一般財団法人自治体国際化協会 多文化共生ツールライブラリー わたしの避難カード | 栃木県・公益財団法人栃木県国際交流協会

[www.clair.or.jp/j/multiculture/tool\\_library/tools/115075.html](http://www.clair.or.jp/j/multiculture/tool_library/tools/115075.html)

(参照 2022-10-21)

(出典2) 奈良県 県内在住外国人数の推移 <https://www.pref.nara.jp/47516.htm>

(参照 2022-10-21)

(出典3) 出入国在留管理庁 外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策

[https://www.moj.go.jp/isa/policies/coexistence/nyuukokukanri01\\_00140.html](https://www.moj.go.jp/isa/policies/coexistence/nyuukokukanri01_00140.html)

(参照 2022-10-21)

(出典4) 永田宏和/石井美恵子 監修 新しい防災のきほん事典 朝日新聞出版刊  
2021

(出典5) 政府統計の総合窓口(e-Stat)在留外国人統計

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00250012&tstat=000001018034&cycle=1&year=20210&month=24101212&tclass1=000001060399&tclass2val=0>

(参照 2022-10-21)

(出典6) 市区町村別 国籍・地域別 在留外国人

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000032213255&fileKind=0>

(参照 2022-10-21)

(出典7) 法務省出入国在留管理庁の令和2年度 在留外国人に対する基礎調査の概要

<https://www.moj.go.jp/isa/content/001342229.pdf>

(参照 2022-10-21)